

めざす児童生徒像

学校教育目標<伝え合い、認め合い、高め合う子の育成>

- 1 伝え合う子 授業や日常の学校生活の中で、自分の思いや考えを持ち、相手に伝えることのできる子→主体性の育成【自立】
- 2 認め合う子 相手の思いや考えを共感的に受け止め、相手の良さを見つけることのできる子→安心感のある集団作り【協働】
- 3 高め合う子 より良くなるために、互いに気付きを伝え合い、高め合うことのできる子→創造的な集団作り【創造】

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学校重点項目 (学校で設定)	自己肯定感の向上	各項目を90%以上にする。	① 教師が日常的に子どもの良さを認め、伝えている。	100	81.3	94.5		教員、保護者ともに①②については目標指数を超えた。生徒指導の3機能を生かした授業づくりや児童に達成感を味わわせるような活動を保護者に理解してもらったことができた。教員の③については、キャリアパスポートの実践が2学期からであることが考えられる。児童の①については、教師の声かけなどが伝わっていないことなどが考えられる。	児童の①については、宝物ファイルの活動や運動会などの行事、日々の授業などで、教師が意識して価値づけしたり、児童どうしがいちいところを見つけたりしたが、児童一人ひとりによいところがあることを実感してもらえないようにする。教師③については、宝物ファイルやキャリアパスポートが計画通りに行っているかを声かけしていくようにする。
			② 子どもが達成感を味わうことができる場を設定している。	100	94.3	95.1			
			③ 宝物ファイルやキャリアパスポートの取組を計画的に行っている。	87.5					
			集計						
重点項目 業務の改善	働き方や業務の改善	各項目を90%以上にする。	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	94.1			全ての項目で90%を超えている。計画に基づいて見直しを持って取り組んでいる。 C4thで月半ばの状態等を個人的に見ることができ、その後の時間外勤務を考えて働くことができたことがよかった。	今後も早目早目の計画に基づき、見直しを持って取り組めるようにする。自分の勤務状況を時々把握しながら、計画的に勤務できるよう全体に周知する。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	94.1					
			③ ワークライフバランスを意識し、見直しをもって計画的に業務を行っている。	94.1					
			集計						
小松市共通重点項目	学校研究	各項目の割合が90%以上にする。	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100			研究推進委員会での提案を研究全体会で共通理解し、全教職員で取り組んできたことが成果として現れている。 昨年度までの研究の積み重ねを生かして、1学期も全体研究会や全体授業を行うことができた。	夏季休業中に、1学期のまとめと2学期の取組に向けての研究全体会を行い、今後も共通理解・共通実践ができるようにしていく。 2学期も昨年度作成した「思考・表現のアイテム系統表」を意識し、活用・改善できるようにしていく。 また、小松市の指定を受け、2学期は生活科・総合的な学習の時間の実践・授業改善に重きを置き、探究的な学習を進めていく。2学期の成果を実践発表で報告できるよう取り組んでいきたい。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100					
			③ 探究的な学習の充実に向けて、「語り合い3か条」「思考・表現のアイテム」を意識した授業改善を行っている。	100					
			集計						
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	①②③④の割合が教職員・児童共に85%以上にする。	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	100	90.5		教員・児童アンケートにおいては、①②③④の項目すべて目標の85%を達成することができた。 教員アンケート②④⑦の結果から、学校研究において「語り合い3か条」を意識し、「みんな聞いてわかった!できた!」授業をめざして取り組んで成果がうかがえる。 教員・児童アンケート①④⑥から、めざす授業のVTRを視聴し、各クラスで課題を児童自らが設定し、「みんなで作る授業」をめざして取り組んできたことや、ふり返りを大切にしたり、児童の変容を授業者が児童に返して評価してきた成果が見られる。	1学期の成果と課題をまとめ、夏季休業中に再度教職員全体で共有し、2学期は児童におおしてスタートできるようにする。 教員と児童の評価の差が大きかった項目は③であった。③に関わる「自分の考えを発表する」「資料や言葉の組み立てを工夫する」ということは、「総合的な学習の時間」、探究的な学習において大切な要素となる。具体的な指導方法や取組を、まず教職員が学び、児童にも指導していく必要がある。 ④は、「語り合い3か条」で取り組んできたことである。児童自身が力の伸びを実感できるように、ふり返る場面を設定したり、ついた力を実感できる場面を設けたりしたい。また、質の高い話し合う活動ができるような授業をコーディネートできるように、授業力の向上を図ってきたい。	
			② 児童生徒は、学級の友達と関わり合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	93.8	88.8	-5			
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	100	85.9	-14.1			
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	100	90.9	-9.1			
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	93.3	92.6	-0.7			
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	86.7	96.7	10			
			⑦ 児童は、算数の授業が、「わかった」「できた」と感じている。	100	96.2	-3.8			
	学力の向上	国語と算数の単元テストの平均点が85%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100.0			①については、年度初めに全教職員で指導計画の立案の仕方やカリキュラムマップの作成などで共通理解を図ることができた。②については、月に1度、学校力ロードマップが計画通りに行っているか確認する場を設けたり、定期的な各主任に声かけをしたりしながら進捗状況の把握に務めた。③については、国語科や算数科を中心に、基礎基本の定着を図る実践を行ってきた。国語科と算数科のテスト結果は目標指数を上回ることができた。④については、小中連携委員会が担当でカリキュラムマップや学校力向上ロードマップなどの情報交換を行うことができた。	学力向上に向けて、その都度、目的をもった研修を計画的に設定し、開催しており教員は高い意識で学力向上に向けて取り組んでいると考えられる。今後、学校研究と連携をとりながら、毎日の授業を大切にしながら、学力向上に努めていくことが必要である。④については、小中連携委員会が話し合われたことを共通理解する場を設定していきたい。	
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100.0					
③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。			100.0						
④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)			93.8						
家庭学習	③の児童の割合が90%以上、保護者の割合が80%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100	89.6		児童の③の項目がわずかに目標指数が届かなかった。③の項目については、教員と保護者の評価の隔たりが大きい。項目②については、1年生は学習用端末を活用した家庭学習の対象ではないため、結果の数値が低くなっていると考えられる。	②の項目については、GIGA担当と連携して、教員を対象に学習用端末を活用した家庭学習の活用について研修を行いたい。③の項目については、2学期の家庭学習がはじまる前週で家庭の協力を得たり、担任による日々の声かけをしたりしていきたい。		
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	85.7	78.4					
		③ 自分で計画を立てて勉強している(3年以上)	100	89.6	73.1				
		集計							